



エコ・へるす

〇〇●● 長野県環境保全研究所ニュース 平成21年(2009年)3月25日発行 ●●〇〇
 安茂里庁舎 〒380-0944 長野市安茂里米村1978 TEL.026-227-0354 FAX.026-224-3415
 飯綱庁舎 〒381-0075 長野市北郷2054-120 TEL.026-239-1031 FAX.026-239-2929
<http://www.pref.nagano.jp/xseikan/khozen> Email: kanken@pref.nagano.jp

霧ヶ峰のニホンジカが急増

近年、長野県ではニホンジカの生息数が増加して大きな問題になっています。シカが増え過ぎると、農林業被害だけでなく、自然林での樹木の剥皮や高山植物を食べるなど、自然植生へも大きな影響を与えます。霧ヶ峰でも、ここ10年あまり前からシカの姿がめだつようになってきました。

霧ヶ峰は八ヶ岳中信高原国定公園に指定され、広大な草原や貴重な高層湿原を有する特徴的な自然景観をもつ高原です。草原は戦後数年くらいまでは、採草地や牧場として管理されてきましたが、現在は観光資源として活用されています。特に、7月下旬頃に開花するニッコウキスゲの群生はみごとで、観光の目玉となってきました。ところが、近年はシカが花芽を食べるために、開花数が減少するなどの影響が出始めています。そこで、まずシカの生息動向をモニタリングすることを目的に、研究所では長野県霧ヶ峰自然保護センターと共同で、2004年秋からライトセンサス調査を始めました。

ライトセンサス調査は、夜間に車をゆっくりと走らせて両脇からライトを照らし、光るシカの眼を探して頭数を数える調査です。霧ヶ峰のシカの活動は夜間が中心です。また、光る眼は200mくらいの距離でも発見することができ、日中よりもずっと効率的に調査することができます。調査ルートは、大門

峠～強清水の東西16km及び踊場湿原～八島ヶ原湿原の南北10kmの道路沿いです。調査は春と秋に4～5日ずつ行い、その平均発見頭数を比較してシカの増減の傾向を把握します。また、八島ヶ原湿原では1ヶ所からライトを照らして、湿原へのシカの入り込みも観察しました。なお、調査には霧ヶ峰パークボランティアの方々をはじめ、一般から多数のご協力をいただきました。

調査の結果、2004～2006年の平均発見頭数は20頭前後でほぼ一定していましたが、2007年春から増加傾向にあり、2008年秋はこれまでの最高の53頭になりました(図)。八島ヶ原湿原へも多くのシカが入り込んでいることが確認されました。また、ライトセンサス調査とは別に、2008年度はニッコウキスゲの花芽がどれくらい食べられているかを調査しましたが、平均して57%が食べられているとの結果になりました。特に、人の入り込みがそれほど多くない地域では、78～97%が食べられていました。

シカの増加は最初は目立ちませんが、途中から急増するパターンがよく見られます。霧ヶ峰でも今後同様に急増することが心配されます。研究所では今後も引き続き、霧ヶ峰でライトセンサス調査やシカによる植生への影響調査を行っていく予定です。

(岸元良輔・尾関雅章 kanken-shizen@pref.nagano.jp)



霧ヶ峰のニッコウキスゲ

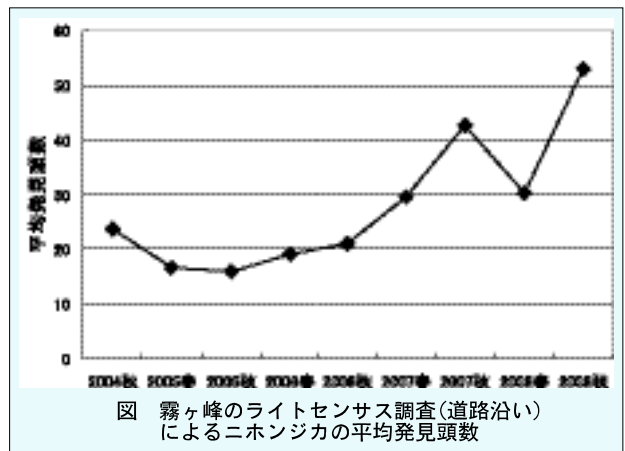


図 霧ヶ峰のライトセンサス調査(道路沿い)によるニホンジカの平均発見頭数

目次

霧ヶ峰のニホンジカが急増…………… 1
 特別寄稿…………… 2・3
 研究所日記…………… 4
 トピックス・出前講座報告・精度管理調査報告… 5

公開セミナー報告…………… 6
 自然ふれあい講座報告…………… 7
 平成21年度自然ふれあい講座のご案内… 8